

志教育の 視点	☑かかわる ・ ☑もとめる ・ ☑はたす
------------	----------------------

活動名	ボランティア活動への取り組み（学校外学修）
教科・領域等	社会体験・ボランティア活動
活動学年等	全学年
ねらい	地域における体験的・実践的な活動のなかで、社会の一員であることを自覚し、互いが支え合う社会の仕組みを理解することで、将来を見据えた職業観や進路目標をもてるような経験を積ませる。生徒が主体的・継続的に取り組むことによって社会奉仕の精神を涵養し、自らの在り方、生き方を求めて自己実現しようとする姿勢を育む。

【実践内容】

〔志教育の視点〕 将来の職業や生き方について考え、その具体化に向けて、社会体験・ボランティア活動に全力で取り組む。

〔活動内容〕

本校では、奉仕活動部という、部員が通年で様々なボランティア活動に取り組む部活動がある。また、奉仕活動部に所属せずに、個人としてジュニアリーダーなど、地域でボランティア活動に取り組んでいる生徒もいる。本校には学校外学修としてボランティア活動を単位認定する制度があり、年間を通して1750分（50分×35回）活動することで、年度末に学校外学修委員会を経て、進級（卒業）認定会議において単位認定される（年間で2単位まで）。希望する生徒には年度始めに“ボランティア手帳”を発行しており、その都度取り組んだ活動内容や時間をボランティア先で記載してもらう。単位認定を目標に熱心に活動する生徒もいれば、単位認定は目指さずに、自分の取り組みたい活動を選んで自分のペースで取り組みたい、といった生徒もあり、目的や取り組みの形態は様々である。

具体の活動内容としては、仙台光のページェントやあしなが学生募金における街頭募金活動、仙台・青葉まつりにおける勾当台公園でのゴミステーションの運営や仙台市社会福祉協議会主催によるボランティア体験会、夏季休業中における近隣の小学校のプール監視補助、仙台市子ども会連合会主催のイベント、市民センター主催の地区祭り、NPO法人による地域イベントといったボランティアスタッフの募集も年間を通して引き合いがあり、全校生徒に呼びかけ、説明会を開催して参加者を募っている。

ボランティアスタッフの呼びかけの際は、概ね定員に達することが多く、コロナ禍における機会の減少から、継承がなされずにボランティア経験を持つ生徒がいなくなってしまうのではないかと危惧されたが、生徒の興味・関心は高い。しかし、コロナ禍の空白期間の影響は大きく、ボランティア手帳の発行数は減少傾向にあり、熱心に取り組む層よりも、広く浅く、仲の良い友人と誘い合って取り組んでみようといった層が増えたことで、今年度も多数の生徒が参加することができた。

それぞれの担当者からも、熱心に取り組んでおり、またお願いしたいという感想を頂くなど、地域との関わりで世代を超えた人たちとの交流を持つ経験を通して生徒の自己有用感の醸成につながっている。

また、市民センターでのイベントにおける書道部・写真部・美術部による作品展示や、卓球部及びバドミントン部員による小学生対象の技術指導も毎年行われている。イベントの企画段階から相談を受け、参加の形態について検討していただくなど、地域においても、本校の特色としてボランティア活動が根付いていることの表れとなっている。

他にも、生徒会執行部や部活動による自主的な通学路周辺のゴミ拾いや落ち葉掃き、雪かきなどを行うようになって10年以上経過している。雪かきに関しては昨年度から“仙台雪道おたすけ隊”に学校として参加しており、積雪の際には野球部の部員が中心となり、学校周辺から陸前落合駅の間の除雪及び凍結防止活動等に取り組む、仙台市のホームページでも紹介された。学年毎のクラス単位での地域清掃活動も継続し、これまで中止されていた様々な行事についても、内容を実態に合わせて変更しながら再開する場面が増えた。

〔自分・未来をみつめ志を高める手だて〕

コロナ禍を乗り越えて、新たに生徒の間に経験が引き継がれていくことで、踏み出しやすい土壌を維持し、地域の一員であることを自覚して互いが支え合う社会の仕組みを理解させたい。生徒が主体的・継続的に取り組む活動を通して社会奉仕の精神を涵養し、自らの在り方、生き方を求めて自己実現しようとする姿勢につなげていきたい。

ボランティア活動に興味を持ち、友人と相談しながら挑戦し、自己有用感を醸成しながら友人を誘い繰り返し参加していくといった一連の流れが根付き、本校の特色となっている。



仙台・青葉まつりエコステーション運営



除雪活動